

自己評価報告書

平成23年 4月15日現在

機関番号：12102

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2010

課題番号：20730178

研究課題名（和文）北アフリカ諸国における産業発展のルーツとプロセスの実態的解明

研究課題名（英文）Empirical Investigation on Roots and Process of Industrial Development in North African countries

研究代表者

柏木 健一（KASHIWAGI KENICHI）

筑波大学・大学院人文社会科学部研究科・助教

研究者番号：00447236

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学・経済政策

キーワード：経済発展、ミクロ経済分析、産業発展、産業育成

1. 研究計画の概要

本研究は、北アフリカ諸国の経済改革先行国における産業発展のルーツとプロセスを東アジアの産業発展の経験を適用しつつ、ミクロレベルで実態的に解明するものである。具体的には、エジプト、チュニジアおよびモロッコにおいて、雇用創出の鍵とされる極小・小企業を対象に事業所調査を行うことでミクロデータを収集する。また、実証分析・三カ国比較分析を行うことで、北アフリカ諸国に有効な雇用創出メカニズムを検証し、EU等先進諸国へのキャッチアップを図る経路を展望することを目的とする。

2. 研究の進捗状況

(1) 平成20年9月および平成21年3月にエジプト共和国を訪問し、現地エジプト中央統計動員局（Central Agency for Public Mobilization and Statistics: CAPMAS）および一橋大学経済研究所の研究協力者による協力を得て、調査対象候補地であるラマダン10日市、ショブラヒーマ、エルマハラエルコブラに立地する繊維工場を視察した。また、調査プレテストを実施し、調査質問票を作成し、調査地を確定した。また、調査実施の詳細についてエジプト中央統計動員局と合意した。現地調査の結果、2005年の多国間繊維協定の失効による輸出割当の廃止が、エジプト国内繊維産業に中国やインドとの競争激化をもたらしており、生産性向上・輸出競争力強化が重要課題であることが明らかになった。

(2) 平成20年7月および11月、平成21年1月および3月にチュニジア共和国を訪問し、現地カルタゴ11月7日大学付属ザグアン高等農業学院の研究協力者による協力を得て、チュニス

県、スース県、スファックス県におけるオーリーブ工場を視察した。また、チュニジア農業・水資源省に対して調査許可申請を行い、許可を得た。現地調査の結果を踏まえて質問票を完成させ、調査対象地をチュニス県、スファックス県、スース県、ベジャ県、ジャンドーバ県およびビゼルト県に確定し、平成21年1月に調査を開始した。同3月に調査を終了し、調査結果のデータセットを受理した（サンプル数：139）。

(3) 平成22年9月にエジプト共和国を訪問し、現地エジプト研究・訓練センター（Egyptian Research and Training Center）、エジプト中央統計動員局および一橋大学経済研究所の研究協力者による協力を得て、調査対象地であるショブラヒーマ、エルマハラエルコブラの繊維工場を視察した。また、大カイロ、上エジプトおよび下エジプトの繊維工場を調査し、計1200サンプルの繊維工場個票データを収録した調査データセットを受理した。

(4) 平成21年に実施したチュニジア・オーリーブオイル精油工場調査の結果を用いて、技術効率とマーケティング能力向上の諸要因ならびに地域間の生産性と技術効率の差異が生じる要因を解析し、平成22年9月に南アフリカ・ケープタウンで開催された第3回アフリカ農業経済学会にて報告した。また、平成22年に実施したエジプト繊維工場調査の結果を用いて、技術効率性とその水準向上を図る要因を解析し、平成23年1月に一橋大学で開催された国際シンポジウムにて報告した。なお、モロッコにおける事業所調査に関しては、国際機関より製造業のミクロデータセットを入手した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由) これまでの調査により、チュニジア、エジプトおよびモロッコのマイクロデータを収集でき、各国個別の分析（チュニジアおよびエジプト調査については実施済み）ならびに三カ国の比較分析（最終年度実施予定）の準備が整った。

4. 今後の研究の推進方策

(1) 平成23年度が研究実施の最終年度であるため、これまでに調査を実施したチュニジアのオリーブオイル工場およびエジプトの繊維工場のマイクロデータを用いて、生産性、特に技術効率および技術進歩率を推計する。確率論的フロンティア生産関数を推計し、技術効率性とそれを向上させる要因を特定する。また、技術進歩率については、パネルデータが得られないため、総要素生産性をインデックスとして推計し、それを向上させる要因を解析する。なお、モロッコについては、データベースから得られる事業所のマイクロデータを利用して、チュニジアおよびエジプトとの比較分析を展開する。

(2) 上記により、北アフリカ三カ国における技術効率を向上させる要因と技術進歩を誘発する要因を導き出し、東アジアの経験を適用しつつ、同諸国に共通する産業発展の条件を解明する。また、北アフリカ諸国に有効な雇用創出メカニズムを検証し、EU等先進諸国へのキャッチアップを図る経路を展望することにより、最終報告書を取りまとめる。

5. 代表的な研究成果

[雑誌論文] (計3件)

- ① Kashiwagi, K., “Productivity Growth and Technical Efficiency Change in the Southern Mediterranean Countries under the Barcelona Process,” *Area Studies Tsukuba*, Vol.32, March 2011, pp.97-114. (査読有)
- ② Kashiwagi, K., “Total Factor Productivity Growth and Its Determinants for Olive Oil Manufacturing in Tunisia,” *Proceedings of the Tunisia-Japan Symposium, Regional Development and Water Resources: New Vision for the Sustainable Society*, p.43-47, November 2010. (査読無)
- ③ Kashiwagi, K., “Productivity Growth, Technological Progress and Technical Efficiency Change in Egyptian Economy,” *The Journal of International Public Policy*, Vol.26, September 2010, pp.67-80. (査読有)

[学会発表] (計3件)

- ① K. Kashiwagi, “Technical Efficiency of

Production of Textile Industry in Egypt,” *International Symposium, Construction of Longitudinal Network with Middle East Countries: Towards the Mutual Understanding and Development of Joint Research*, Hitotsubashi University, Japan, 29th January 2011.

- ② Kashiwagi, K., “Total Factor Productivity Growth and Its Determinants for Olive Oil Manufacturing in Tunisia,” *Tunisia-Japan Symposium, Regional Development and Water Resources: New Vision for the Sustainable Society*, Gammarth, Tunisia, 29th November 2010.

- ③ Kashiwagi, K., N. Mtimet, L. Zaibet, and M. Nagaki, “Technical Efficiency of Olive Oil Manufacturing and Efficacy of Modernization Programme in Tunisia,” *3rd Annual Conference of African Association of Agricultural Economists & 49th Annual Conference of Agricultural Economists Association of South Africa*, Cape Town, South Africa, 19-23 September, 2010.